

1. 調査報告書

1. 活動の背景（地域の現状とまちづくりの状況）

- 根岸地域は、台東区の北部に位置し、荒川区に接している。
- 根岸という地名は、その昔、この地が上野の山のもと沼地のきわであったことに由来する。
- その風光明媚な土地柄は、文人墨客芸術家が好んで住む古くからの住宅地で、多くの文化人を輩出している。現在でも、寺社が多く、また、長屋、町屋、路地、さらには、かつての料亭街の建物が残るなど、長い歴史を感じさせる趣のあるまちである。
- しかし、区域の外周を形成する幹線道路沿道では建替えやマンション化が進み、個性的なまちなみは失われつつある。
- また、区域の大半が戦災を免れたため、区画整理による基盤整備がなされておらず、狭小幅員道路が多いほか、古い木造住宅も存在する等、防災上の問題を抱えている。
- これらの問題に対し、台東区では、根岸3・4・5丁目地区を対象として平成12年から「密集住宅市街地整備促進事業」の導入を検討し、安心して住み続けることができるまちづくりに取り組んでいる。
- 同時に、地域からの意向を集約し、行政側へ伝えていく役割として位置づけられたまちづくり協議会が設立され、概ね月一度の定例会を開催している。これまでに、防災まちづくり提言づくり、まちづくりニュースの作成、イベントの企画、整備計画に対する要望などを行ってきた。
- しかし、現状としては、地域のまちづくりに対する関心は一部に限られており、普及・啓発活動の展開が大きな課題となっている。
- 平成14年2月には、密集事業の事業計画同意（整備計画の変更承認）を受け、本格的な事業が始まる段階にあり、より多くの地域住民を巻き込む必要性も高まりつつある。



2. 活動の経緯と目的

1) 活動の経緯

今回の活動に至る経緯としては以下の三点があげられる。

防災まちづくり祭りの開催（2002年11月）

- 平成14年11月3日に、「まちづくりに関わる人を増やす」「まちづくり協議会活動の周知」「防災意識の啓発」を目的



としたイベントを開催した。この中で、事業地区内にある病院跡地（約 3,800 m²）について、地域住民がどのような活用を望んでいるかシール投票によるアンケート調査を行った。今までの枠にとらわれない公園・広場を整備するためには、より多くの人を巻き込みながら自主的な維持・管理の仕組みを検討することが必要であると確認できた。

密集住宅市街地整備促進事業の開始と防災広場用地（約 3,800 m²）の取得

- ・ 密集事業の事業計画作成にあたり、まちづくり協議会では、下谷病院跡地の活用について区とともに検討してきた。平成 14 年 12 月の時点で、事業計画の中に、防災性向上のための拠点づくりに下谷病院跡地を活用していくという基本的な方針が区から説明された。まちづくり協議会としては、今後広場の計画づくりが始まったとき、より多くの人に参加できるように、まちづくりの間口拡大を狙った活動を起こす必要性を確認した。（平成 15 年 2 月密集事業事業計画大臣同意、3 月 17 日には跡地の売買契約成立）

「防災まちづくり提言」の作成とその具体的な提案の必要性

- ・ 平成 13 年度、区が作成する密集事業の整備計画作成に対し、まちづくり協議会では「防災まちづくり提言」を作成した。
- ・ この提言は、今後のまちづくり事業の基本的な指針となり、また、行政と住民が協働のまちづくりを進めていくことを宣言するものされている。
- ・ 「下町根岸の良さを活かした防災まちづくり」を大きな目標としているが、今後事業がはじまり、共同建替えの種地等がうかびあがってきた時に、具体的に建物を誘導していく仕組みやその根拠は曖昧なままである。建築行為に対するローカルルール作成のために、早い段階で「根岸の良さ」を共有する必要がある。

2) 活動の目的

以上の経緯をふまえて以下の二点を大きな活動目的とする。

広場づくりをきっかけとしたまちづくりの普及啓発及び広場の機能・デザインする過程、維持管理に関する検討
建物・外部空間を中心とした「根岸の良さ」の検証と整理



3. 活動の内容

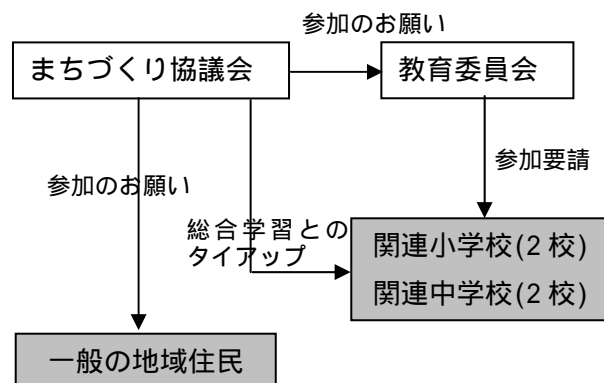
1) 広場づくりをきっかけとしたまちづくりの普及啓発活動等

広場づくりコンテストの開催

- ・ 具体的には下谷病院跡地（約3,800㎡）を対象敷地として、広場づくりの案を、小学生・中学生・大人から募集した。
- ・ 小学校・中学校への参加に関しては、教育委員会からの働きかけ、小学校3年生の総合学習内の課題として取り上げてもらうなど工夫をほらった。
- ・ 応募数は、372点あった。

広場づくりシンポジウムの開催

- ・ 広場整備に必要な視点・要素の洗い出しと広場整備への意識向上を目的としたシンポジウムを開催した。シンポジウムは大きく「第一部広場づくりコンテスト発表会」「第二部行政・地域・専門家によるパネルディスカッション」の二部構成とした。
- ・ 第一部のコンテスト発表会は、372点の作品から優秀なもの18点（子供13点、大人5点）を発表してもらった。
- ・ 第二部のパネルディスカッションの構成メンバーは、「子供の遊び環境」「防災」「環境デザイン」「まちづくり」といった多分野の専門家、「公的な立場」から区公園緑地課・まちづくり推進課、地域住民代表としてまちづくり協議会委員、計6名（+コーディネーター1名）とした。
- ・ また、ロビーでは、全作品の閲覧コーナー、優秀作品の展示、根岸まちづくりマップの展示などを同時に行った。



ロビーでの作品展示



第一部コンテスト発表会



第二部パネルディスカッション

< パネルディスカッション：パネリスト発言の要旨 >

防災性向上が大前提。しかし地域の自由な意見を大事にしていきたい。

- ・ 根岸の環境は魅力だが、同時に防災面で問題を抱えている。まちの良さを残しながら、どう防災性を高めていくか考えたい。一昨年から協議会の方と相談し、提言書などをつくってきた。路地・コミュニティーの良さ、緑地・公園の少なさなどの話が出た。今度、下谷病院跡地を広場用地として購入する予定である。ここを防災用地として、狭隘道路の通り抜けとして、また、代替地として使うつもりである。今後、整備・管理について、住民の方と1年間じっくり議論をしていきたい。金銭面などの制約もある

が、自由な考えから形にしたい。《大江》

環境や防災、まちの中での広場の役割は大きい。

- ・ 現在、公園の絶対量が不足している。また、公園は遊び場というだけでなく、環境や景観、まちづくりの視点からも重要である。本来、計画的に更新していきたいのだが、財政難などの問題もあり上手くいかない。そんな折り、広場整備の可能性がでてきた。量的確保や防災性向上など、その役割は大きい。住民の意見を聞きながら、広場という点だけでなく、全体のまちづくりの中であるべき姿を、一緒に考えていきたい。《田中》

地域のネットワークを広げ、活力あるまちづくりにしたい

- ・ 協議会では、まち歩きや防災まちづくり提言の冊子を作って、根岸のいいところ・わるいところを調べてきた。下谷病院跡地の話が本格化してきて、活気づくのではと感じている。前回、今回のイベントを通して、様々な思いを垣間見ることもできた。地域にネットワークをつくるのは大変だが、今回のようにたくさんの作品が集まるのは良い傾向だ。住民主体でやっていると言っても、価値観の違い等もある。私達が、住民本位のまちづくりができるように、活動できたらいいということも検討していく。《早川》

苦情も意見も、住民達で話し合うべき。責任をもってまちに住むことが大切。

- ・ 冒険遊び場（プレーパーク）は大人から子ども達が指図や禁止を受けない、子どもが自由と責任を考えるようになる場所と思っている。プレーパークを体験し、自分達でそういう場をつくりたいと思い、台東区内で活動している。役所で話を聞き、公園の禁止事項が、近隣の人達から話しが来るので仕方なく作っているということを知った。近隣住民の苦情が役所に行くのではなく、直接、住民間で話し合うべきだと気づいた。そういったことから、子ども達のことやまちづくりのことを考えるべきだと思った。《碓水》

広場づくりは、みんなで愛着を持つことから。つくりあげるプロセスが大切。

- ・ みんなで何かを考えて一つのものに決めていくというのを、どういう風にやっていくのか、広場の事例を紹介する。あまり造り込むのではなく、市民の人達にも考えてもらって何かをしたいということで、ワークショップを行った。1日は自由に自然とふれあい、もう1日はグループごとにイメージを膨らませ、良いところを考えた。小学生から大人まで、興味と思い入れを持ってくれた。みんなでワイワイやりながらだと、思いの入った意見にまとまっていく。《松尾》

広場づくりとは、ひとつのきっかけ。

- ・ 発表から、子どもたちは良いところを知っていると思った。まちの良いところを調べて、それを体験できるよう、子どもたちにも知ってもらえるよう、活動している。広場というものをまちづくりに重ねて考えていただきたい。《椎原》

2)「根岸の良さ」の検証(根岸の里資源台帳の作成)

- 根岸・下谷・東日暮里を対象エリアとして、「町家」「長屋式町家」「看板建築類似型」「長屋」「町家系専用住宅」「小規模独立住宅」「屋敷」「ミニ洋館」の詳細なデータを収集した。調査をするにあたっては、一棟ごとに写真におさめ、路地との関係、建築的装飾などについてのメモをとった。(資料「根岸・下谷現地調査シート」)
- 現地調査、議論のたたき台作成は、法政大学陣内研究室が中心となって進め、まちづくり協議会(定例会+臨時会)において、まとめ方等に対する意見集約を行った。
- この調査は、今後建物の建替え等に対するローカルルールを検討するための基礎的な資料作成するためのものとして位置づけており、以下の二点に関して整理した。

まちの歴史と建物の整理

A 建築形態発展過程

- 現地調査より収集した建物をタイプ分類し、それぞれについて都市の発展過程の中で位置づけ整理した。現時点では、その歴史的な意味・価値を考察することにとどめているが、今後、これら「歴史的な建物(住まいとしての遺産)」を魅力的な都市空間・景観形成のためのストックとして認識し、それらの何を活かしていけば良いか考える際の貴重な資料となった。

B 街区形成の過程

- 既往の資料を中心として、都市空間の成り立ちを整理した。

まちの個性の整理

- 現状のまちの姿を認識し、根岸の景観の特徴や今後活かしていく要素を15のキーワードをもとに抽出した。その際に既往研究「下町型住宅のあり方に関する調査/平成6年・台東区」の知恵袋集を参考としている。

<キーワード>

「路地」「アプローチ」「大木」「更新」「外壁」「葺」「庭」「テラス」「塀」「入口」「門」「装飾」「あふれだし」「椅子」「自転車」

- 今後は、この整理をもとに、まず根岸の個性として認識すべきことを広くパンフレットなどにより周知していく必要がある。



街区スケール(路地、アプローチ)から小さなスケール(装飾、塀、入口など)を大まかに15のキーワードに分類し、それぞれに対して、現状分析を行い、今後活かしていく要素を整理した。

4. 活動の成果

- 1) 根岸の歴史的建物データベース（資料 根岸・下谷現地調査データベース）
- 2) まちの歴史と建物の整理及びまちの個性の整理（資料 根岸の里資源台帳に関する調査）
- 3) 地域住民に対するまちづくり活動への普及啓発効果（広場づくりへの参加）
- 4) 専門家・地域とのネットワーク形成、まちづくりキーパーソンの発掘（小学校教育との連携など）
- 5) 広場づくりに必要となる要素の共有化（資料 シンポジウム記録集）：計画から維持管理までの一貫した地域の関わり、自主的な維持管理組織など



例) 建築博物館「町家系専用住宅の変遷」



例) キーワード「入口」